10月1日
中のまきば&ブナ二次林を
おさんぽしてきたよ！

▲ミネザクラの紅葉

▲天然芝の広い野原が
広がります。

▲リンドウ
今年最後のリンドウのお花
朝晩の寒暖差が激しくなると
青いお花がより濃い青に変わります。
湿原のイネ科植物も紅葉をはじめました。

▲ウメバチソウ

中のまきば＆ブナ二次林コース

安比といえば
ブナの二次林と橅のおはなし

「二次林」とは？

自然災害や伐採によって失われた原生林が自然に回復して林になった場所のことです。

安比のブナ二次林は

今から80年以上前の昭和初期に地元の人々が木炭や漆器の材料にするために原生林を伐採しました。その際に1ヘクタールあたり1本の母木が残されました。当時は手鋸での伐採だった為に、切れないくらい大きな木が残されたそうです。その後、牛の放牧が盛んになりましたが、牛がブナの成長を阻む笹を好んで食べたおかげで、ブナが育ちやすく、二次林の形成の助けとなりました。

マザーツリー　幹廻りは3.6mあります！

ブナの成長はとてもゆっくり。芽吹いてから1mの高さになるまで約5年かかります。直径40cmの木で100歳くらい。幹廻り3.6mのマザーツリーは300年以上生きていることになりますね!!

ブナの樹皮の斑模様は樹皮の表面に棲みついた地衣類が作っています。地衣類とは菌類と藻類が共生している生き物で、光合成も行いながら栄養を作り出して暮らしています。

ブナの実

ブナの古名は「ソバノキ」「ソバグリ」といいます。「ソバ」とは『稜角』(※三角にとがった角のこと)という意味。三角にとがった栗のような実をつけるので、ソバグリと呼ばれました。ちなみに麺類のソバの実も同じ語源で、昔は麦と区別して「ソバムギ」と呼ばれていたそうです。

熊さんも大好き！人間がたべてもしぶみもなく、クルミのような味がしておいしい。

キツツキが虫を探して穴をあけた幹

ブナは成長するにつれて根から毒素を出して自分の周りの木を枯らしてしまいます。すぐ近くに2本の木が育っている場合、それは1つの実の中に入っていた同じ遺伝子を持った種から成長した双子の木ということです。

ブナの受難

ブナを漢字で書くと『橅』

ブナは重い雪に耐えられるように、よく曲がるやわらかい材質をしています。そのため、木材としては価値の無い木という扱いをされ、『橅』という漢字が生まれました。曲げには適しているため、太鼓の胴や家具の脚として使われることもありましたが、戦後の国策による杉の殖林で原生林は激減してしまいました。

近年になって、ブナが天然のダムの役割をしていることや、海の豊かさにも影響していることがわかり、やっと大切にしてもらえるようになりました。

花

実

ユキザサ

新芽は
山菜として人気
ですが、実には
毒があるので
注意!!

▲ノコンギク

カラスシキミ

赤い実は冬を越して
翌年の夏まで枝に残ります

▲ヒメモチノキ

ヤマハハコ

このお花は咲いている
時からカラカラに乾いて
います。冷たい夜の空気に
当たっても凍らないように
水分がありません。

ホオノキの実

朴葉味噌や朴葉焼の
葉っぱとして有名です。
実はモクレンの仲間。
この中に種子がたくさん
詰まっています。

ヤナギランの種

7月の中旬にはかわいい
ピンク色のお花を咲かせます

ノバラの実

真赤できれい。ドライフラワーや
リースの材料にもなります。